

日本学術会議 公開シンポジウム

2010年9月11日(土)

13:00 ~ 17:00

参加無料 / 事前申込不要

日本学術会議講堂

東京都港区六本木 7-22-34

東京メトロ千代田線「乃木坂」駅 5番出口徒歩1分

神経経済学 — その基礎と展開 —

プログラム

- 13:00 ~ 13:20 開会の挨拶
苧阪 直行氏 (日本学術会議会員・京都大学 特任教授)
- 13:20 ~ 14:10
Thomas Zentall 氏 (ケンタッキー大学 教授 / 実験心理学)
「*Maladaptive gambling by pigeons*」
- 14:10 ~ 15:00
Wolfram Schultz 氏 (ケンブリッジ大学 教授 / 神経生理学)
「*Neuronal value and risk signals*」
< 休憩 20分 >
- 15:20 ~ 16:10
Colin Camerer 氏 (カリフォルニア工科大学 教授 / 実験経済学)
「*The neural circuitry of economic valuation*」
- 16:10 ~ 17:00
高橋 英彦氏 (京都大学 講師 / 社会脳科学)
「*Neural basis of social emotions*」

※発表はすべて英語で行われます。

司会

- 渡辺 茂氏 (日本学術会議連携会員・慶應義塾大学 教授)
- 坂上 雅道氏 (日本学術会議連携会員・玉川大学 教授)

近年の行動科学・神経科学のめざましい発展は、心理学・生理学のみならず、周辺諸科学にも大きな影響を与えつつある。その波は、文理の垣根を越えて、人文・社会科学にも及びつつある。なかでも、ヒトの行動の科学的理解にその基礎を置く経済学に与えた影響は大きく、欧米では神経経済学として新しい学際的分野が形成されるに至っている。

本シンポジウムでは、神経経済学の基礎を築いた実験心理学者、神経生理学者、実験経済学者による、それぞれの立場からの意思決定のメカニズムに関する研究の歴史とその展開を聞くことにより、神経経済学という新しい融合分野がどのように生まれ、今後どのように発展しうるのかを考える。また、日本の社会脳科学研究の第一人者により、日本における神経経済学の現状と最先端研究についての報告を受ける。

ヒトの心と行動の科学的理解のみならず、社会制度のあり方にも提言をはじめた神経経済学について、最先端を走る4人の研究者との討論を通して、脳科学時代の新しい生命観、人間観、さらに社会観のあり方を探る。

お問い合わせ：京都大学 苧阪研究室 e-mail: nosaka@bun.kyoto-u.ac.jp / 玉川大学 坂上研究室 e-mail: sakagami@lab.tamagawa.ac.jp

主催：日本学術会議 心理学・教育学委員会 脳と意識分科会

共催：玉川大学グローバルCOEプログラム「社会に生きる心の創成」 / 慶應義塾大学グローバルCOEプログラム「論理と感性の先端的教育研究拠点」